

---

# 銀杏の木の下で

悲劇のM

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

銀杏の木の下で

### 【Nコード】

N0466F

### 【作者名】

悲劇のM

### 【あらすじ】

ツンデレ以外も描けるんだーっ！

富士岡高校の体育館の裏には、大きな銀杏の木がある。開校記念に植えられた木であり、数十年の樹齢を持つ。春には芳しい香りで鼻を飽きさせず、秋には美しく、どこか物悲しく葉を散らせる。皆に慣れ親しまれているその木は、既に学校の一部となっていた。

そんな銀杏の木には、一つのジंकスがあった。木の下で行われた告白がうまくいくと、二人は永遠に結ばれる、というものである。そして俺は今宵、この木の下に呼び出された。靴箱にあったピンクの便箋に包まれた手紙に、ここに来るよう書いてあった。震える手で書いたのだろうか、綺麗な字が所々歪んでいた。恐らく、いや、絶対告白だろう。

正直、こんなふざけたジंकスを最初に言い出した奴をぶつとばしたくてしょうがない。何が永遠に結ばれる、だ。そんな馬鹿な話があるわけない。第一、俺は恋愛ことなど興味無い。愛し合って何になるというのだ。

だが、勇気を出して手紙を俺に渡してくれた。その勇気に応えず来ないというのも善い行いではない。嫌々ながらもここに足を運んだ。

言うまでもないが、誰がどう巧い言葉を繰ろうが、OKを出すつもりは無い。手紙を出してくれた人にはすまないが、俺は興味が無いのだ。

数分待ち、ふいに欠伸が出た。と、その時だった。

向こうからこちらに一人の生徒が駆け寄ってきた。手紙を出した本人だろう。その瞳は期待と不安が入り混じった色をしていた。

俺の前に立つと、荒ぶる息を整えながら俺の目を見た。

「あの、待たせちゃいましたか？」

「いや、全然。どうせ暇だし」

俺はそっけなく返す。そいつは恥ずかしそうに身をくねらせなが

ら、唇齒に震える唇で言葉を紡いだ。

「えっと、今日呼び出したのは大事な話があるからなんです……」  
「いよいよ本題に入るらしい。だが、俺の答えは既に決まっている。  
NOだ。」

「わ、私と付き合ってください」

そして、言い終わらないうちに俺はその場から逃げた。こんなこととするのは悪いが、やっぱり場の空気に耐えられなかった。振り返るが、そいつは追ってこなかった。ただ呆然と、そこに立ち尽くすのが義務であるかのように、そこに立ち尽くしていた。

俺は自分を責めていたが、ふと思う。悪いのは俺じゃない、と。

男子校なのに変なことを言い出した奴が全面的に悪いのだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0466f/>

---

銀杏の木の下で

2011年1月22日02時26分発行